

第2回 雨天時浸入水対策ガイドライン策定検討委員会 議事要旨

日時：令和元年10月25日（金）15:30～17:30

場所：公益財団法人日本下水道新技術機構

- P2 で「計画降雨以下の降雨に対して雨天時浸入水に起因する事象の発生を防止することを目的」と記載があり、計画降雨以下を限定した表現となっているが、計画降雨以上の時も効果が発揮されるというような書きの方が良いと考える。
- 対策を推進することで計画降雨以上の降雨時も、事象の発生に伴う影響を軽減する効果が発揮されると考えている。記載方法を検討する。
- 計画期間や目標について具体的な記載が無いが、管理者の立場から目標が無いと事業を実施し難い。また、最少限度の定義の記載がないが考え方があれば教えていただきたい。
- 計画降雨以下の降雨に対して雨天時浸入水に起因する事象の発生を防止することを目的としている。計画期間や最少限度とする措置は、地域の実情に応じて、地方公共団体が定めることとする。
- 下水道としては放流先への配慮も大事だと考える。放流先の水環境を勘案して等の記載があると良いと考えるため、検討いただきたい。また、処理場の対策を検討する場合、水処理が重要であることも記載して欲しい。
- 記載方法を検討する。
- 雨天時浸入地下水量は、現在値と計画値があるので、表現を区分した方が良い。
- 記載方法を検討する。
- 浸入水がどのブロックが弱点であるか把握することが重要であり、第2章の現状の把握を充実することが大切と考える。下水道新技術機構のマニュアルが、調査や発生源対策の参考資料として記載されているが、その他の章節にも部分的にも参考となる文献があれば記載した用が良い。
- 参考文献を調査し、記載方法を検討する。